

清泉女子大学 発展協力会

活動のご報告



2026年6月

会長挨拶

平素より会員の皆様には、清泉女子大学発展協力会の活動に温かいご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

清泉女子大学が学校法人清泉女学院の一員となってから、1年が過ぎました。皆様のお力添えにより、学生たちは学内での学びに加え、学外での活動にも積極的に取り組み、少しずつ成長の歩みを重ねています。その姿を間近に感じられることを、私どもも大変嬉しく思っております。

昨年度は、同窓会である麗泉会の皆様にご協力いただき、発展協力会が支援した学生の活動について、学生自身による報告の機会を設けることができました。実際に活動した学生自らの言葉で、経験や学び、成長の様子を皆様にお伝えできたことは、大変意義のあることでした。本年度も、このような報告の機会を継続してまいりたいと考えております。

これからも発展協力会は、学生一人ひとりの挑戦を支え、清泉女子大学での学びがより豊かなものとなるよう支援してまいります。今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

清泉女子大学発展協力会会長
百武 彰吾



2025年度 寄付金の使途

①グローバル人材育成支援プログラム（40名）	262,975円
②チャレンジ支援奨学金（3組4名）	289,307円
③発展協力会学業奨励奨学金（10名）	300,000円
④キャンパスキャスト等への支援（図書カード）	900,000円
⑤学修支援システムに対する支援	1,200,000円
⑥教育の充実、課外活動支援、社会貢献活動支援等のための活動	86,810円
⑦国際交流基金への組入れ	2,541,158円

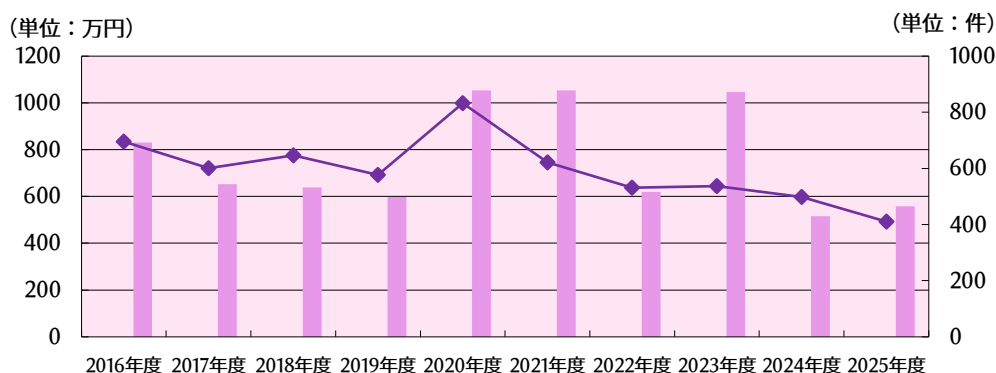


皆様からの温かいご支援により、2025年度は410件、558万250円のご寄付をいただきました。本紙面をお借りして心より御礼申し上げます。これらの寄付金は、上記のとおり学生の活動支援等のために役立てさせていただきました。①では、TOEFL ITP・iBT、DELE、IELTS for UKVIの受験料の補助などを行いました。②では、環境や多様性をテーマにファッションショーを企画した活動や、震災の影響によりスポーツの環境が限られている地域で子供達にテニス教室を開催するなど、社会課題に目を向けて多彩な活動に取り組んだ学生4人に対し、支援を行いました。③では、3年次生の成績優秀者に対して、3万円ずつ奨学金を授与しました。④では、オープンキャンパスの運営補助や留学生支援などを行うキャンパスキャストに対して、謝礼の図書カードを配布しました。⑤では、学生の学修状況や相談内容を一元管理し、履修指導・キャリア支援等に活用する学生支援システムの運用費用の一部に充当させていただきました。⑥では、東ティモール支援活動の一環として学生が制作した絵本『ワニとカメ』の印刷費や、聖ラファエラ・マリア帰天100年記念タペストリーの額装費に活用させていただきました。

2025年度 寄付金明細表（2025年4月1日～2026年3月31日）

個人会員								法人会員		計	
(1)本学に在籍した者		(2)本学に在籍した者の父母及び家族		(3)本学現旧教職員		(4)一般の有志		件数	金額	件数	金額
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額				
367	3,893,234	24	1,060,000	16	593,500	3	33,516	0	0	410	5,580,250

年度別寄付金額（棒線グラフ）と寄付件数（折れ線グラフ）



地球市民学科4年 森 美咲さん（チャレンジ支援奨学金）

－奨学金の支給対象となった活動内容について教えてください。

福島県大熊町の子どもたちに向けたソフトテニス体験教室の企画・運営に取り組みました。東日本大震災の影響により、大熊町には実質的に習い事場が失われていることを知りました。そして、大熊町周辺は震災前までソフトテニスの強豪地域だったこと、私自身が長年続けてきたソフトテニスの経験や、小中学生への指導経験を活かして、大熊町の子どもたちに新たな体験の場を届けたいと考えたことが活動を始めるきっかけとなりました。月に一度現地を訪れ、小中学生を対象に、「体を動かす楽しさ」や「できた」という成功体験を感じてもらうことを大切に活動しました。また、教育委員会や学校と連携しながら、安全面や運営面に配慮し、安心して参加できるよう努めました。

保護者の方の協力により開催することができた、隣町・富岡町にある「富岡ふれあいドーム」でのテニス教室の様子



－活動を終え、今どのように感じていますか。

活動を通して印象に残っているのは、子どもたちの変化です。最初は陰で見ていた子や、緊張していた子どもたちが、次第に自らボールを追いかけ、笑顔でプレーするようになっていきました。「もう一回やりたい」と声を上げたり、友達を誘って参加する姿も見られ、小さな変化の積み重ねに大きな喜びを感じます。その姿を見て、体験の機会が人の意欲や自信につながることを実感しています。

そして、当たり前前の日常が失われた中でも、人と人とのつながりを大切にしながら、自分にできる関わり方を考え続けています。継続して通う中で、保護者とも関係が生まれ、活動が少しずつ地域に根付いてきました。今後も自分にできる形で活動を発展させていきたいと考えています。

同じ日に大熊町を訪れていた大学生とともに、落下がゆっくりな風船を使い、「できた!」という感覚を大切にしながらの指導



－この経験を今後どのように活かしていきたいですか。

本活動を通じて、環境によって体験機会に差が生まれている現状に強い課題意識を持つようになりました。実際に大熊町で子どもたちと関わる中で、ほんの小さなきっかけが挑戦する意欲や自信につながる様子を目の当たりにし、機会の有無がその後の可能性に大きく影響することを実感しました。今後は、誰もが新たな一歩を踏み出せる機会を届ける仕組みづくりに関わりたいと考えています。自ら企画し、周囲を巻き込みながら活動を形にしていく中で培った行動力や調整力に加え、相手に寄り添いながら関係性を築く力も、社会の中で活かしていきたいです。出会いや経験に真摯に向き合いながら、自分にできる形で社会に価値を還元し続けていきたいです。

－チャレンジ支援奨学金を目指す後輩たちへ向けてメッセージやエールをお願いします。



生徒と笑顔の1枚。写真右が森さん

私の将来の目標は、人の可能性を広げるきっかけを提供できる存在になることです。今回の活動を通して、小さな体験が人の自信や選択肢を広げることを実感しました。大熊町で、最初は一歩踏み出せなかった子どもが回を重ねるごとに自ら挑戦する姿へと変化していく様子から、「きっかけ」の持つ力の大きさを強く感じました。今後は、環境に関わらず誰もが新たな一歩を踏み出せる機会を届けていきたいと考えています。「チャレンジ支援奨学金」は、その一歩を後押ししてくれる制度です。自分の関心に正直に向き合い、ぜひ挑戦してみてください!

ラケットの持ち方や基本フォームを指導



地球市民学科4年 中田 裕加里さん（学業奨励奨学金）

—どのような学生生活を送っていますか。

地球市民学という多角的な視点から社会や人について学ぶため、「自分の生き方」を追求することを軸とした学生生活を送っています。生きることに對して疑問を持ち、これまで経験したことのない多くの活動に取り組んできました。何か大きなことを成し遂げるといよりも、自分自身や他者と向き合いながら挑戦し、どうすれば新たなものに結びつけることができるか試行錯誤しています。行動する過程で「表現する」「伝える」ことの大切さを知り、「物を語る」をテーマに、自分の心の内を表現するプロジェクトに取り組んでいます。地球市民学を中心に、哲学、文学、社会学、情報学、司書・学校司書課程など幅広く学び、成績優秀者の一人として表彰されました。

—課外活動ではどのようなことに取り組んでいますか。

カンボジア王国SDGsインターンシップに参加し、日本全国から集まった学生と一緒に、フェアトレードコーヒーの新しい販売案を企画し、Three Corner Coffee Roaster代表取締役の方に提案しました。参加のきっかけは、自分の生き方に迷いが生じ、未知のものに触れて自分自身を変えるためでした。初対面の人と活動し、未知の文化や歴史、今そこで生きている人の考え方を目の当たりにすることにより、知ることや学ぶことのできる幸せ、人と出会い考える幸せなど、「幸せ」を体感しました。

また、学生会執行委員会では委員長を務め、組織の改善のため詳細な資料を作成したほか、クリスマスパーティーやガーデンパーティーの局長、清泉祭などのイベントの運営にも積極的に携わり、課題についても多くの気づきがありました。学生会費の周知と案内の方法、委員会と学生、大学の結びつきについて改善を提案した際には、先生方をはじめ、職員、保護者、学生の方々などから多くのご協力をいただきました。

学生会執行委員会活動 Instagram



インターンシップのグループメンバーとの1枚。右端が中田さん



—奨学金をどのように活用したいと考えていますか。

発展協会からいただいたご支援は、前述のプロジェクト活動やボランティア活動に活用したいです。「誰もが自分の心の内を表現できる」「他者と共に生きることに向き合う」社会について改めて考え、自分の生き方を変えていきたいと思っています。「表現」して伝えることにより、物語を多様な形にしたいと考えています。カンボジア王国での経験や学びを生かし、グループメンバーとの日本でのフリーマーケット計画や、個人では体験記をまとめたものを本にすることを計画しています。また、いずみ文芸賞への作品応募など、多くの挑戦を続けたいと思っています。



ガーデンパーティーにて「いずみ文芸賞」（第二席）の賞状を授与される中田さん

—将来の夢や、後輩たちへ向けてのアドバイスやエールをお願いします

これからも自分の生き方を問い続けて人やものの結びつきについて考え、より温かい繋がりを築ける人になりたいと思います。家族や友人、お世話になった方々の存在は大きく、どのような時も生と死が隣り合わせであることを忘れずにいようと思います。そして、国内外、大小問わず、心に触れるものを見つけ、自分の意思を形に表していきたいです。悩んで止まる自分と進む自分、どちらもいて良いのではないのでしょうか。誰しも、言葉にしづらかったり、行動にできなかったり、自分が何を考えているかわからなくなったりすることがあります。その状態をマイナスだと考えるのではなく、自分の行動の原点とするのも自分次第です。

ガーデンパーティー局長を務めたイベントで、先輩方と撮った1枚。右から2番目が中田さん



Purpose 2026年度 寄付金の使途 (予定)

皆様からの温かいご支援は、本学の未来をつくるために大切に活用させていただきます



①グローバル人材育成支援プログラム 500,000円

②チャレンジ支援奨学金 (ボランティア活動も含む) 1,000,000円



③発展協力会学業奨励奨学金 (10名) 300,000円

④清泉キャンパスキャスト等への支援 (図書カード) 900,000円



⑤学生支援システムに対する支援 1,200,000円

⑥教育の充実、課外活動支援、社会貢献活動支援等のための活動 1,100,000円

本年度は、寄付金の目標額を600万円に設定し、皆様からいただくご寄付については、上記の使途を予定しております。従来から行っている様々な学生支援に加え、教育の充実、課外活動支援、社会貢献活動支援等のための様々な活動や、履修指導・キャリア支援等を始めとする、大学全体の学生支援で活用するシステムの運用費の一部としても使わせていただきます。

皆様からのご寄付は、学生支援や教育・研究活動の充実のための資金として、有効に活用させていただきます。何卒ご賛同賜りますようお願い申し上げます。

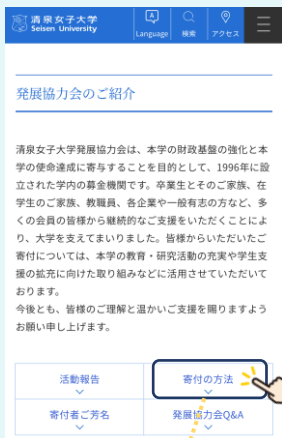
How to インターネット寄付のお手続き方法

同封いたしました郵便局・ゆうちょ銀行の振込用紙を使ったご寄付以外にも、
本学ホームページより簡単にお手続きいただけます

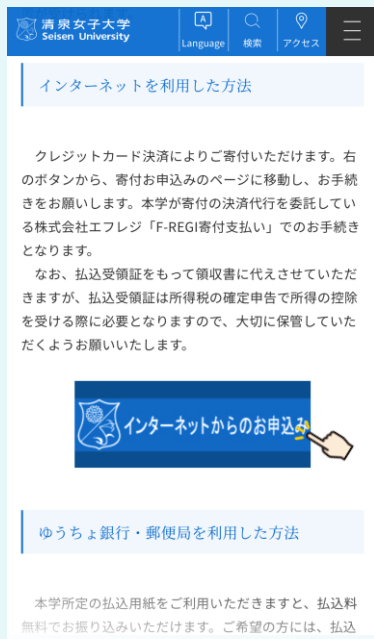


1 QRコードを読み込むと左下のページに移ります

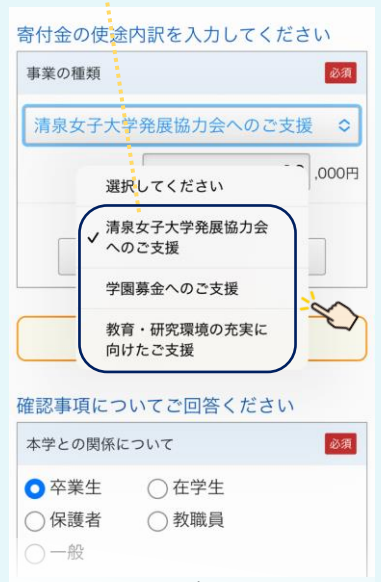
4 下記の項目からご希望の使途をご指定し、金額・クレジット情報等をご入力ください



2 「寄付の方法」をクリックすると右の画面→に移ります



3 ご氏名・ご住所・お電話番号等の情報をご入力ください



※クレジットカードでのご寄付の際、セキュリティ強化のためワンタイムパスワードの入力を求められる場合がございます。